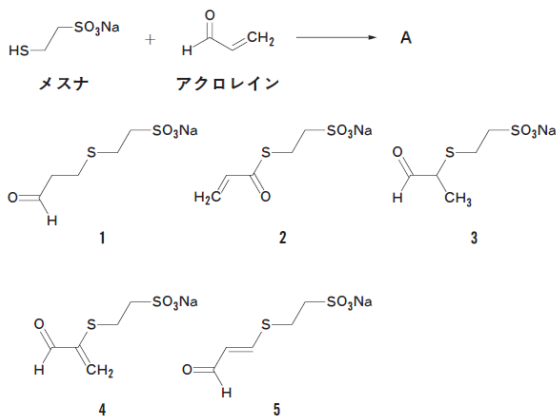


102-206

問題文



解答

問206 : 3, 5問207 : 1

解説

問206

イホスファミドはアルキル化剤です。シクロホスファミドと共に出血性膀胱炎のリスクが知られており、リスク軽減のためメスナを投与します。

選択肢 1 ですが

イホスファミドによる「骨髄抑制」ではありません。出血性膀胱炎です。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

抗腫瘍効果を減弱させるということはありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は、正しい選択肢です。

選択肢 4 ですが

イホスファミドは腎排泄性というわけではないのですが、膀胱炎のリスクからも連想できるように腎臓に対する副作用が大きい薬剤です。腎機能に応じて薬剤の使用を控えるなど腎機能の考慮が必要です。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

薬剤の速やかな排出を意図したものです。

以上より、正解は 3,5 です。

問207

これは有機化学の問題です。アクロレインが α - β 不飽和カルボニルであり、 β 位に付加反応します。これはマイケル付加です。従って「 $\text{C=O}-\text{C}-\text{C}-\text{S}-$ 」という構造を有するものが正解です。

以上より、正解は 1 です。